

主よ、あなたを呼びます

奨励	金 度 亨 [きむ・どひょん]
奨励者紹介	日本キリスト教団ゴスペルハウス教会教師

都に上る歌。

深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。
主よ、この声を聞き取ってください。
嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。

主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら
主よ、誰が耐ええましょう。
しかし、赦しはあなたのもとにあり
人はあなたを畏れ敬うのです。

わたしは主に望みをおき
わたしの魂は望みをおき
御言葉を待ち望みます。
わたしの魂は主を待ち望みます
見張りが朝を待つにもまして
見張りが朝を待つにもまして。

イスラエルよ、主を待ち望め。
慈しみは主のもとに
豊かな贖いも主のもとに。
主は、イエラエルを
すべての罪から贖ってください。

(詩編 130編1-8節)

アドベント—主を待ち望む期節

本日はアドベント讃美礼拝として、礼拝を守っています。アドベントという言葉は、元々ラテン語のAdventusから派生した言葉で、「到来」「近づいて来る」「迫って来る」という意味から、イエス・キリストの来られるのを待つ期節のことです。

イエス・キリストが私たちの救い主として来られたことを思い起こしながら、再びこの地に来られることを待つのです。真の平和がこの地に実現されることを切に願いながら待つのです。しかし、私たちは何もしないで座ったまま待つだけではいられません。本日の詩編を書いた人のように深い淵の底から、叫びながら、祈りながら、待つのです。

深い淵の底で主を呼ぶ

本日の聖書の記者が置かれたところの「深い淵の底」とは、詩編23編に記されている「死の陰の谷」と同じような場所であり、「誰からも助けを得られない」場所でもあります。苦しみの場所であり、孤独な場所でもあります。このような状況、このような場所に置かれまると、我々は絶望を覚え、深く落ち込みます。この鬱のような状態で極端な行動をする人もいます。現代を生きる我々も、しばしばこのような状況に直面することがあります。死の陰の谷、絶望の淵に立たされるような困難を経験することがあります。

人々に見捨てられたり、裏切られたり、思いがけない病に侵されたり、大きな失敗を経験したり、深い挫折感を覚える時があります。このような時、我々は心の淵の底に陥ってしまったような絶望を感じます。自力ではとてもそこから抜け出ることができないほどの深い絶望に陥るのです。その時、誰かが助けの手を差し伸べてくれれば、なんとかその手を掴んで起き上がろうと努力するでしょうが、誰も手を伸ばしてくれません。そのような場所がすなわち、「深い淵の底」であります。

ところが、詩編の記者はその「深い淵の底」から「主よ、あなたを呼びます」と切に叫び求めています。このような祈り、このような叫びをとおして、深い絶望の淵の底にいる記者は再び生きる希望を見いだします。7節に記されているように絶望はやがて慈しみ深い主、豊かな贖いの主を待ち望む希望へと変わります。

「イスラエルよ、主を待ち望め。／慈しみは主のもとに／豊かな贖いも主のもとに」。

本日の聖書をおして我々が学びたいことは、いかなる厳しい状況に置かれたとしても、そこから主を呼び求めることであります。我々は皆、絶望に陥る時があります。孤独を感じる時があります。しかし、そこから主に叫び、祈るのです。

愛する皆さん、今、深い淵の底にいるような苦しみの中におられるならば、そこから主を呼びましょう。主に叫びましょう。その叫びの中で、その主を求める切なる祈りの中で、主の与えてくださる希望を経験することができます。

しかし、祈ることさえできない人々がいます。叫びの声すら発し得ないような深い絶望の中に置かれている人々がいます。その人々の手を握って共に祈りましょう。祈ることができない人々のために、その人々の代わりにその人々のために祈りましょう。その叫びの中に希望があります。その祈りが人を生かす希望の種であります。

クリスマス—希望を祈る日

キリスト教の信仰において、イエス・キリストの受肉、すなわちイエス・キリストの誕生は、神が人間になってこの世に来られたことであります。すなわち、人間の罪と苦しみを救うために、神が罪と苦しみの場所に降りて来られたことを意味します。私と皆さんがいる「深い淵の底」に来られたのであります。イエス・キリストが我々と共におられるので、我々には希望があります。そのような意味において、クリスマスは苦しみの中におられる人々と共に、深い淵の底におられる人々と共に、主イエス・キリストの降臨を待ち望み、希望を祈る時であります。

世界人権宣言—祈れない人のために祈る日

国連総会では、1948年12月10日に「世界人権宣言」(Universal Declaration of Human Rights, UDHR)を発表しました。これを記念して、1950年から毎年12月10日を「世界人権デー」とし、世界中で記念行事を行うことを決議しました。日本はこの日に先立つ1週間を人権週間としています。

数多いホームレスの人々、正当な待遇を受けていないさまざまな人々がいます。戦争や内戦の中で、子どもたち、女性たち、弱い立場に置かれた人々は苦しみを受けています。

私たちの周りにも抑圧され、人権が守られていない人々がいます。苦しみの中にいる人々がいます。「深い淵の底」に陥っている人々がいます。彼らのために共に涙を流し、祈り、彼らのそばに寄り添って、キリストにある希望を分かち合いたいと思います。

2013年12月3日 今出川火曜チャペル・アワー「アドベント讃美礼拝奨励」記録